

「石川」の河川敷を歩いていると...

一本の大きな木に7~8羽の「カラス」が群れており、しきりに鳴いていました。

様子を見に近づくと...

その木から「タカ」が飛び立ったのです！

大きさは「カラス」と同じくらいで、白っぽく見えるその姿...、「オオタカ」です！

悠然と飛び立ったかと思うと、200mほど先の対岸の木まで飛び去ってしまいました。

獲物を手でつかんでいる様子はなかったので、もしかすると「カラス」を捕まえて食べようとしていたところに、仲間のカラスが集まってきて妨害行為をしていたのでは、と思い、木の下まで行って調べてみると...

そこには「キジ」の雄が横たわっていたのです！

「オオタカ」が捕らえたのは「キジ」だったのです。

「カラス」の妨害に会い、食べる前に退散せざるを得なかったようです。

「キジ」の雄成鳥の体長は80cmくらいと、同50cm強の「オオタカ」に比べて大きいので、持ち上げて飛ぶには重すぎたのでしょうか...

この河川敷ではこれまで、「ノスリ」や「チョウゲンボウ」などの「タカ」の仲間を確認していたのですが、「オオタカ」は初めて見ることができました。

そして...

河川敷内の他の大きな木の枝下も調べてみると...

写真 ~ : キジ (雄成鳥)

1947年に日本の国鳥に指定されましたが、「ケーン」という特徴のある鳴き声を聞いたことはあっても、その姿をじっくりと見たことのある方は少ないのではないのでしょうか？

特に傷は見当たりませんでしたが、果たしてどのように「オオタカ」に捕らえられたのでしょうか...

桃太郎の鬼退治にお供したという武勇伝もある「キジ」ですが、猛禽に対しては為す術もなかったのでしょうか。

写真 : つばさ (食痕)

大きな木の下に、「羽」と言うより「翼」が落ちていました。

専門家の方に(この写真を)見ていただいたら、フクロウの仲間「トラフズク」の翼ではないか、ということです。(大阪府・京都府・奈良県・滋賀県のRDBでは絶滅危惧類)







